

## (4) 学校造園研究会

会 長 石川 真紀 ( 蕨岡小 )  
副会長 小島 良友 ( 東中筋小 )  
事務局 小橋 匠 ( 東山小 )

### 1. 研究主題

「よりよい学校環境を目指して」

### 2. 研究過程

実施年月日	研究のあらまし	会 場	備 考
R3. 8. 6 (金)	○夏季研修会 I 「庭木の剪定方法と刈払機の使い方について」(説明・実技) 講師：池田造園 池田道一さん	東山小学校	5名参加
R3. 11. 11 (木)	○夏季研修会 II 「学校園芸施設の見学・説明、刈払機の使い方・メンテナンス方法について(説明・見学)」 講師：幡多農業高等学校 谷 渕 悠 先生 西森隼也さん(実習助手)	幡多農業高等学校	5名参加

### 3. 今年度の取り組み

○夏季研修会 I 8月 6日(金) 東山小学校

刈込鋏を使っての庭木の剪定と、刈払機を使っての雑草の刈り方についての研修を行った。会員の研修希望が、「剪定実習」と「刈払機に使い方」と二つあったため、2コースに分かれて実習を行った。

剪定実習では、刈り方の説明を受けた後、樹形を考えながら会員それぞれが鋏を入れていった。樹木の幹の部分については、苔を落とすことや、出っ張っている部分(以前切り落とした枝の部分)をきちんと幹の高さにそろえて切ることも行いながら実習を行うことができた。



刈払機を使っての雑草の刈り方の研修では、エンジン式とバッテリー式の2種類の機械を試しながら中庭の草刈りを行った。燃料の準備や重量に難はあるが、パワーや持続力に勝るエンジン式と、持ち運びや取り扱い、メンテナンス等に優れるバッテリー式のそれぞれの特長をすることができた。

8月の暑さの中であったが、それぞれが希望する研修を行うことができた。



○夏季研修会 II 11月11日(木) 幡多農業高等学校

まず、園芸科の管理する施設内の見学をした。

畑には、ねぎと白菜が植えられており、あまりにも生き生きと美味しそうに育っているので感嘆の声が上がった。農薬は、極力害の少ないもので回数を少なく与えていること、白菜の巻きは、適切な時期を見極め適量の追肥を施すことで上手く出来上がることを教えていただいた。

ビニルハウスには、メロン、トマト、シクラメンが主に栽培されていた。シクラメンは今年も3000鉢作っているが、新型コロナウイルスの影響で一般来客によるバザーが開催できず、販売において支障をきたしているとのこと。他の作物も同様である。メロンやトマト等、それぞれの品種に応じた土づくりも重要で、配合の適正值や水はけの状態の管理など研究が進められている。土質向上のため、自然素材であるヤシガラを使用するようになったのも、環境への配慮をし、人に優しい農業の実践を推進しているためである。JGAP（日本の良い農業のやり方…農業生産工程管理）の認証取得により、今後も更にステップアップし、生徒の実践力向上やデータに基づいたスマート農業の啓蒙など、積極的に役割を担っていきたいということだった。



次に、春季より秋季にかけての雑草との戦いにおいて、参考になるお話を聞くことができた。草刈り機は、右利きの人なら円盤の9時から11時の箇所を草の下部に当てて刈ると良いこと、適切なメンテナンスの方法を知っておくと、業者に頼まず自分ででき、費用の大幅な節約に繋がるし長持ちすること。そして、実際に草刈り機を分解し説明していただくことで、参加者の理解を進めることができた。

#### 4. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 会員の研修課題を満たすことのできる計画、研修を行うことができた。
- 農業高校が取り組んでいる「環境や人に優しい農業」について学ぶことができた。
- 「環境や人に優しい農業」をそれぞれの学校で実践していきたい。